



大出区安全安心なまちづくり

推進協議会だより



令和元年 6 月 第 4 号

箕輪町安全安心の日の集い 2019 が開催されました

箕輪町セーフコミュニティ推進協議会は、平成 26 年 3 月「箕輪町安全安心の日」宣言を行ってから毎年「箕輪町安全安心の日の集い」を開催してセーフコミュニティ活動を推進していますが、令和元年を迎え第 5 回目となる今年は、防災に関する住民要望が高いことから、釜石の奇跡の防災教育を担当し同分野の第一人者である東京大学大学院特任教授・片田敏孝先生を迎えての防災講演会を開催し、200 名を超える参加者からは「とても良い話が聞けた。」と声が多数ありました。

また、本年の集いでは、日本セーフコミュニティ推進機構から大出区安全安心なまちづくり推進協議会も参加している箕輪町地区セーフコミュニティ推進協議会連絡会に対して功労賞が授与されました。

防災講演会の内容を中心にまとめましたので、是非一読してください。

○開催日時

令和元年 5 月 24 日(金)午後 6 時から午後 8 時

○開催場所

箕輪町文化センターホール

○開催概要

- ・安全安心の日の宣言唱和
- ・箕輪町セーフコミュニティ推進協議会会長(町長)あいさつ
- ・日本セーフコミュニティ推進機構「功労賞(団体)」受賞と代表理事の祝辞
- ・講演

「荒ぶる自然災害に地域一体で向かい合う

～災害犠牲者ゼロの箕輪町を目指して～」

東京大学大学院情報学環

総合防災情報研究センター

特任教授

群馬大学名誉教授

片田 敏孝 先生

が行われました。

○ 片田敏孝先生の講演要旨

- ・「コミュニティの中で育まれる子供たちを守れ」が目標であり、箕輪町の安全安心の日

の宣言に地域の絆、協働、継続があったが、本日の講演趣旨も同じである。

- ・ 昨年の自然災害をみるに、6月大阪の地震、6-7月西日本豪雨・猛暑・台風、9月北海道地震と続いた。
- ・ 箕輪町における地震予測は、伊那谷断層帯で震度6強～5弱、南海トラフで震度6強～5弱であり、自然災害については地域の災害特徴を知ることが必要。

- ・ 豪雨災害は毎年ある。

台風は、今まで室戸台風の911ヘクトパスカル、伊勢湾台風の929ヘクトパスカルの記録があるが、今後850ヘクトパスカルを下回る強さになる可能性がある。

台風の発生緯度は上がっており、以前は平均北緯16度であったが、最近は北緯30度くらいで発生している。いずれも温暖化の影響であり、発生緯度が上がると日本への影響も高まる。

- ・ 防災はこれまで、行政が主体で、客体が住民となっている。今後、住民主体の防災対策に転換していく必要がある。これからは住民の命は自らが守り、行政はサポートに変えていかなければならない。
- ・ 東日本大震災にて釜石の奇跡といわれるが、休校の子供5人が亡くなっている。

「人は人として逃げれない」

高齢者を助けようとして亡くなった消防団員、子供を助けようとした母親の死など大切な人のことを考えて逃げられなかった事例がある。

子どもに対しての教育が重要で「君が逃げれば・・・、逃げることを知れば、母も必ず逃げるができる。」となる。

平成29年7月の九州豪雨で40人が亡くなったが、対策で共通するのは思いやりである。

- ・ 防災の向かう方向は、行政、地域が同じレベルで一体となって対応することである。



○ 講演に係る質疑と回答

講演後、最近の高齢化をとらえての防災対策について質疑があり、片田先生から次の回答がなされました。

- ・ 防災をテーマにしてコミュニティ力の向上を図っては。
- ・ 最近の事例として、避難という言葉はあるが、早め早めに地域の人が集まって不安だからこそ楽しく危険な状態をやり過ごしているところもあり、今度いつ集まるのという声も出ている。避難を気楽に考えようということです。

～以上～